

環境学習コーディネーター育成講座に関する実証研究

小川かほる 桑山翔平¹⁾ 西崎泰²⁾

(1: 元千葉工業大学 2: 千葉工業大学)

1 はじめに

2007年に改定された千葉県環境学習基本方針(以下、基本方針)¹⁾に、「環境学習の促進には、学ぶ人と学びを支援する人をつなぐ環境学習コーディネーターが重要なことから、このコーディネーターの育成に取り組めます。」との記載がある。基本方針は「千葉県環境学習基本方針をつくる会(以下、つくる会)」を核とする市民参加により、作成されたものである²⁾。

その後、つくる会のメンバーが中心になり、県とNPOとの協働事業^{注1)}を活用して、「環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業(以下、協働事業)」が提案された³⁾。また、採択時にニーズ調査が条件として付託され、アンケート調査が2008年に実施された。その結果、環境学習コーディネーターが関わった環境学習講座の事例が少ないこと、コーディネーターと環境学習指導者との混同が明らかになった⁴⁾。一方、市民・学校・企業・行政が連携・協力し環境学習の推進に取り組むことは必要であり、そのためにも異なる主体をつなぐ環境学習コーディネーターの役割が重要であるとの認識は理解されていたことが明確となり⁴⁾、2009年度に協働事業が実施された。

ところで、2004年に制定された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が改正され、2011年に「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(環境教育等促進法)⁵⁾」が公布された。後者においては、環境保全活動・環境保全の意欲の増進・環境教育・協働取組が4本柱となっている。そして、法律に基づく環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針⁶⁾が2012年に閣議決定された。そのうち、協働取組を効果的に実施するためには、「異なる考え方を持つ各主体の間で相互理解を深め、合意形成して、ネットワークを形成していくに当たっては、主体間の違いを埋め合わせ、つなげる役割をもった調整役

(コーディネーター)の存在が重要となる⁶⁾」と記載されていることから、千葉県の協働事業とその後のコーディネーター育成の取組は時代の要請にあったものである。

協働事業では、環境学習コーディネーターの役割、環境学習コーディネーター育成講座(以下、育成講座)、および推進のための制度が検討され、育成講座プログラム案とともに県に提言書が提出された。

協働事業で提案された育成講座プログラムを元に、2010年度に実証研究を行った。本稿では、協働事業、特に育成講座に関する提案内容、およびその企画案をもとに実施した育成講座の実証研究の結果を報告する。

2 環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業

2・1 概要

協働事業は、応募した市民団体と県の協働事業担当課(環境生活部環境政策課、環境研究センター、教育庁教育振興部指導課)が連携して取り組んだ。事業は、提案団体以外に、千葉県の環境保全活動・環境学習のリーダーで今後コーディネーターとして活躍が期待できる人材に参加をよびかけ、多彩な人材を集めたワークショップ(以下、WS)により遂行された。

WSは4回開催され、環境学習コーディネーターの役割の明確化、環境学習コーディネーター育成講座の企画、環境学習コーディネーター推進制度が検討され

表1 協働事業内で開催されたワークショップ

回数	開催年月日	内容
1	2010年 6月11日	環境学習および環境学習コーディネーターの共通認識をつくる
2	7月6~7日	育成講座企画
3	10月2日	環境学習コーディネーター推進システムの検討
4	11月6日	環境学習コーディネーター必携ハンドブックの作成

た(表1)。さらに、コーディネートに必要な情報を収集し、「環境学習コーディネーター必携ハンドブック7」とパンフレットが作成された。この協働事業の成果として、ELCoの会^{注2)}が発足した。

2・2 「育成講座企画」の概要

第2回WSは2010年7月6日から7日の2日間にわたって開催された。そのプログラムを表2に示す。会議のファシリテーターと講演は特定非営利活動法人グラウンドワーク三島の事務局長渡辺豊博氏に依頼し、コーディネーターに必要な力として、本質をはっきり見据える力、相手を知る力、肝力(酒の席を活かせる力)、夢を語る力、全体を見通す力、人を把握する力、応援・理解・共有できる仲間、アドバイスを栄養分として適切に取り入れ排出する消化力、継続力・集中力、話題を豊富に持つ、調整仲介する力、心の豊かさなどが示された。

表2 育成講座企画第2回WSプログラム

日	時間	内容
6日	10:00~10:10	オリエンテーション
	10:10~11:00	講演「コーディネーターに必要な力」
	11:15~12:00	コーディネーターに関する事例報告 ①かしわ環境ステーションの取組 ②千葉自然学校の取組 ③市川市のコーディネーション
	13:00~15:00	グループワーク①「コーディネーターとは? 求められる資質とは」
	15:30~18:00	グループワーク②「講座企画」
	18:30~21:00	グループワーク③「講座企画」
7日	10:00~13:40	グループワーク④「講座企画」
	13:40~14:40	各グループの企画発表
	15:00~16:00	第3回WS「環境学習コーディネーターの推進システム」の準備

表3 統合された講座プログラム案

目標	環境学習推進するための連携協働の要となれる人づくり
対象者	環境学習企画実施経験者、環境学習指導者
1日目	【目標】環境学習コーディネーター&自分を知る アイスブレイク 環境学習コーディネーターとは、環境学習とは 自分を知る:ポテンシャルマップ作り
	【目標】相手を知る 相手を知る(仕組み、現状) 行政、企業、学校、:各関係者から講義
2日目	【目標】コーディネーター能力を身につける コミュニケーション・プレゼンテーション:実習 情報収集のノウハウ:講義 現地情報収集計画立案:グループ毎に作業
	【目標】現地調査によりニーズ調査と情報収集(地域①) ニーズ調査(クライアント行政、企業、学校) 現場情報収集(地域資源) チームで行動
3日目	【目標】現地調査によりニーズ調査と情報収集(地域②) ニーズ調査(クライアント行政、企業、学校) 現場情報収集(地域資源) チームで行動
	【目標】環境学習の企画力を身につける 企画書作成(6W2H、組み立て方):講義 企画書作成実習:グループ毎に作業
4日目	【目標】コーディネーターとしての行動力を身につける 企画書発表・評価・改善 行動計画作成実習:グループ毎に作業
	【目標】コーディネーターネットワークづくり プログラム発表・マッチング ふりかえり、ポテンシャルマップ作成 コーディネーターネットワーク設立の交流会
5日目	【目標】コーディネーター実施 コーディネーター実施、経験の交流
	【目標】コーディネーター実施
6日目	【目標】コーディネーター実施
7日目	【目標】コーディネーター実施
8日目	【目標】コーディネーター実施
フォローアップ	【目標】コーディネーター実施

コーディネーター育成講座のプログラム作成については、つなぐ対象となる企業、学校、市民、行政の4班に分かれて検討し、4通りの講座プログラムが作成された。相手を知るための講座や実習、企画書作りなど共通点が多かった。それらを事務局が統合したものを表3に示す。

統合された講座企画の1日目は、環境学習および環境学習コーディネーターを理解すると同時に、参加者

一人一人のネットワーク（人および組織）を図示化するポテンシャルマップを作ることにより、講座当初の受講生のネットワークを確認する内容である。2日目は、異なる行動規範をもつ行政・企業・学校などを理解し、コーディネーターに必要な情報を得ることである。3日目は、コーディネーターとして必要なコミュニケーション力やプレゼンテーション力をレベルアップするための実習の他、情報収集の方法について学ぶ。4日目と5日目は、情報収集の方法を実際に応用し、いくつかのグループに分かれ地域に赴き、地域のニーズ調査と環境学習指導者の情報を収集する実践的な内容である。6日目は、企画書の作成についての講義の後、グループで企画書の作成を行う。7日目は、企画書を発表し、参加者同士で評価し、企画書を改善する。そしてコーディネーターとしての行動計画を作成する。講座8日目は、講座全体のふりかえりと、講座受講中の参加者のネットワークの広がりを確認すると同時に、修了生のコーディネーターとしてのネットワークを構築する内容となっている。

8日間とも、参加型のグループ活動（以下、参加型活動）や実習が多く、他者の受容や合意形成など、人間関係力を磨く内容である。また、1日目と8日目に作成したポテンシャルマップを比較することにより、講座の評価をすることが可能である。

講座後に、実際にコーディネーターを実施すること、及び受講生同士の経験の交流も検討されており、その交流会でコーディネーターとしての意欲とネットワークが広まることが期待できる。

表4 実証研究共同研究組織

区分	組織名
市民団体	環境パートナーシップちば*
市民団体	GONET*
市民団体	NPO 法人千葉自然学校*
市民団体	ELCoの会
行政	千葉県環境生活部環境政策課
行政	千葉県教育庁教育振興部指導課
大学	千葉工業大学社会システム科学部 経営情報科学科
行政	千葉県環境研究センター

* : 協働事業事務局

表6 事前・調査の質問項目

質問項目	
(1)	学ぶ人中心の学びのあり方を理解しており、その学び方を指導できる(支援できる)
(2)	環境問題およびその根本原因について理解しようとする態度をもっている
(3)	環境教育・環境学習の目的、育みたい力を自分の言葉で説明できる
(4)	問題解決型の環境教育プログラムを提案できる
(5)	ファシリテーターとして、相手の学びをひきだす(促進する、深める)ことができる
(6)	学ぶ人を尊重し、その経験・知識に応じた環境学習プログラムを提案できる
(7)	環境学習・環境保全活動学習の指導者・組織、活動現場の情報をもち、紹介することができる
(8)	環境学習・環境保全活動の指導者を尊重し、必要に応じてサポートできる
(9)	学ぶ人・支援する人共に WinWin の関係をつくることができる
(10)	異なる主体の考え方や行動規範を理解している
(11)	学びを支援する人(指導者)とコーディネーターの役割の違いを認識し、その役割で行動できる
(12)	情報と社会資源(人・組織・もの・場・資金)のネットワークを有している
(13)	活動を評価し、問題点を見つけ、改善することができる
(14)	コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力がある
(15)	レポートや報告書を的確に執筆することができる
(16)	“飛び込み営業”ができる

3 育成講座の実証研究

3・1 方法

実証研究は、協働事業担当者と千葉工業大学との共同研究として実施した(表4)。本研究は、環境学習および環境学習コーディネーターの役割の理解や、コーディネーターに必要な能力・知識を伸ばすことを目的とする学習プログラムの企画・開発である。

講座参加者は、環境学習の分野で学ぶ人と学びを支援する人をつなぐ役割を担いたい人を対象とし、ELCoの会員、千葉県エコマインド指導者養成講座の修了生(平成20、21年度)に実証研究への協力を求める形で、募集案内を行った。受講生は、協働事業事務局メンバー4人を含む18人である。

WS企画では丸1日かかりの講座を8日間で実施する案であったが、受講生の多くが市民活動団体のリーダーであったことから、参加しやすいように半日で行

表5 環境学習コーディネーター育成講座の実施プログラムと改善プログラム

テーマ	目的	実施プログラム	問題点	改善プログラム
環境学習 コーディネーター& 自分を知る	環境学習の意義と進め方を確認したうえで、環境学習コーディネーターの役割を把握する。環境学習の推進に取組む意欲をもって、コーディネーターに必要な能力を身につけるための学びのデザインをするとともに「学びの仲間」をつくる。	13:30～16:30 アイスブレイク(ヒアリング;環境教育の目的, コーディネーターの役割・能力) 参加型活動: 環境問題の原因 参加型活動: コーディネーターの能力とその学び方	ヒアリング結果を的確にまとめ記述する作業は難しく、時間が足りなかった。原因を深く探っていく途中で、解決策を得た人が少なからずいた。 自分を知るためのふりかえりの時間が不十分であった。	10:00～16:30 アイスブレイク(他已紹介等) 参加型活動: 環境教育の意義と進め方(インタビュー記録に関する能力確認) + * 参加型活動: 環境問題の原因 + * ミニ講義: 問題解決型の環境教育・学ぶ人中心主義について 講義: 環境学習コーディネーター事例報告 参加型活動: 環境学習コーディネーターに必要な能力とは、その学び方は + * *: ふりかえり・わかちあい
相手を知る	環境学習の学びに取組む人と環境学習の学びの支援者について、その特徴、制度の仕組み、コーディネーターとしてつなぐ際に必要な情報・知識を身につける	13:30～16:30 講義と討議: 学校について 参加型活動S: 講師が伝えたかったことは、良い質問をすること。 講義と討議: 企業の環境学習の取組	講演内容の理解だけでなく、ノートの取り方、質問力なども講座の狙いとしたが、この目標が受講生に伝わっていなかった。討議の時間が短かった。	10:00～16:50 講義: 企業の環境学習の取組 討議: 企業とのコーディネーターのポイント + * 講義: 学校の環境学習の取組 討議: 学校とのコーディネーターのポイント + * 講義: 行政の環境学習の取組 討議: 行政とのコーディネーターのポイント + *
情報収集 (方法を身につける)	環境学習のコーディネーターに必要な情報収集の方法を学ぶ。7月から8月にかけて、実際に情報収集をするので、そのためのワークシートをつくり、練習を行う。	10:00～16:30 講義: 活動観察事例紹介 参加型活動: ヒアリングシート作成 参加型活動: ヒアリング実習 講義と対話: 教育効果評価と観察力	講義では、観察者と被観察者の両者の話を予定していたが、後者の話ができなかった。ヒアリング実習でヒアリング力の確認およびレベルアップができなかった。	10:00～16:50 ミニ講義: 「ヒアリング手法について」 参加型活動: ヒアリング実習(ロールプレイ) + * ミニ講義: 環境学習指導者情報の収集 参加型活動: 情報収集のためのワークシート改善、調査グループ設定。調査地域・調査対象の検討。発表・受講生同士でアドバイス 講義「教育効果評価と観察力」 ふりかえり、わかちあい
ヒアリング 調査	グループにわかれ、地域を設定し、環境学習に関する情報(環境学習指導者、環境学習プログラム、教材、環境保全活動団体、フィールド)を収集する。	受講生でペアをつくり、ヒアリング相手の決定、依頼、日程調整、実施等、全てを自主的取組とした。	日程があわず、ペアでのヒアリング調査ができなかった例や、調査ができなかった受講生がいた。	環境学習に関する情報(環境学習指導者、環境学習プログラム、教材、環境保全活動団体、フィールド)を収集し、取りまとめる。情報共有を確実にし、情報のネットワークを構築する。
調査報告 情報分析 講座評価	受講生が調査してきた環境学習指導者、環境保全活動など環境学習に役立つ地域情報を共有し、今後の環境学習コーディネーターのための情報源とする。実証研究として行った講座の評価を行い、講座改善を行う。	10:00～16:30 参加型活動: 調査報告発表準備 発表: 調査報告 参加型活動: 環境学習コーディネーターに必要な能力、学び方2・育成講座改善	受講生の既知の指導者にヒアリングする例がほとんどで、新規開拓は少なかった。ヒアリングシートにより報告を行ったが、指導者情報を活用できるまでにはいたらなかった。	10:00～16:30 参加型活動: 調査報告発表準備 発表会・質疑応答 参加型活動: 環境学習コーディネーターに必要な能力とは、その学び方はパート2 ふりかえり、わかちあい

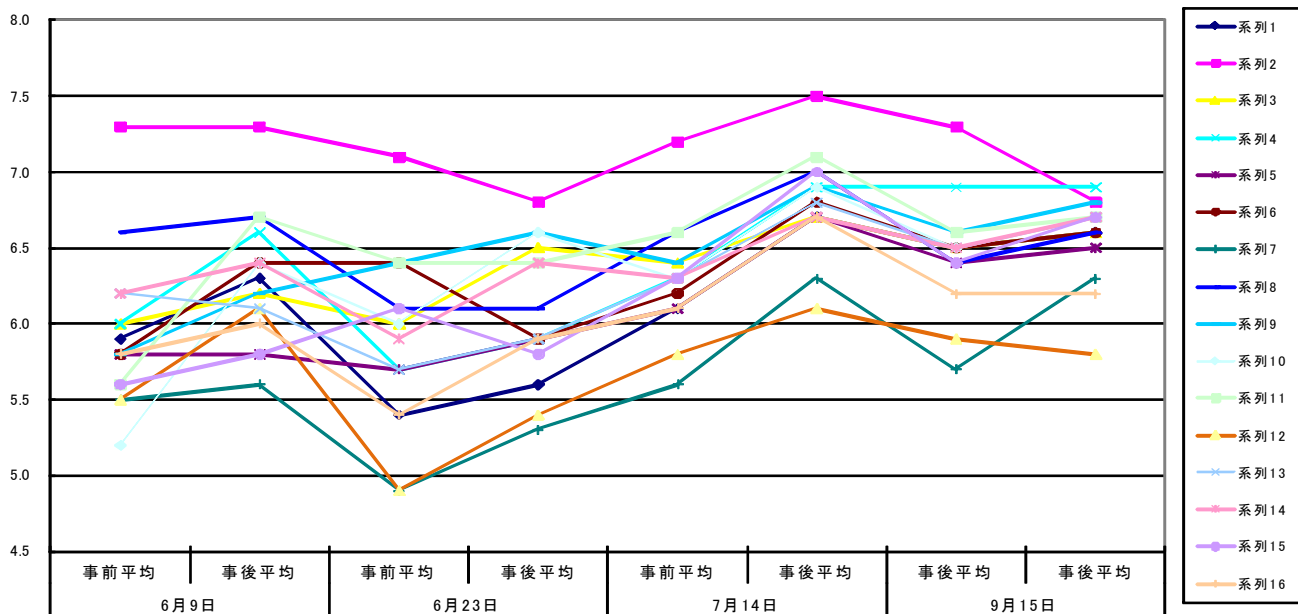


図1 事前・事後調査平均値の変化
(凡例の数字は表6の質問項目の数字に相当)

う講座4日間と地域で情報を収集する実習の組み合わせに変更して実施した(表5 実施プログラム)。また、表3の後半のコーディネーターの企画書づくりは行わず、前半の参加型活動の開発を目的とした。

教育効果を測定するために、事前事後調査、参加者のワークシート等の記述、および観察法による評価を行った。事前事後調査法の自己評価項目として、環境学習コーディネーターとして必要な能力を16項目設定し(表6)、それぞれ0~10の11段階で評価した。

3・2 結果

事前事後調査結果の項目別の参加者平均値とその変化を図1に示す。当日の事前事後調査では有意差が認められる項目もあったが、1回目の開始時と最終回の事後評価値を比較すると、すべての項目において平均値は上昇傾向にあるが、有意差は認められなかった。

受講生は「環境問題およびその根本原因について理解しようとする態度をもっている」が、「環境学習・環境保全活動の指導者・組織、活動現場の情報を持ち、紹介することができる」と「情報と社会資源(人・組織・もの・場・資金)のネットワークを有している」の自己評価が低いまであり、今回の講座ではこれらの能力の開発には至らなかった。その原因として、ヒアリン

グ調査において環境学習指導者の新規開発ができなかったこと、受講生のもっているネットワークが受講生間で共有されなかったことが考えられる。

4 プログラムの改善内容

講座の観察とワークシート・ふりかえりシート等の記述を解析し、問題点を整理し、講座プログラムを改善した。その問題点と改善プログラムを表5に示す。講座では参加型活動のそれぞれにおいて、ふりかえり・わかちあいをを行い、学んだことについて内省を促すことが重要である。

4・1 環境学習コーディネーター&自分を知る

環境学習コーディネーターは単に環境学習に取り組みたい人とその学びを支援する人を単につなぐだけではなく、その連携により行われる環境学習をより良い物とするためのアドバイスを行わなければならない。そのためには、環境学習について深く理解しておくことが必須である。環境学習の意義と進め方を確認し、環境学習コーディネーターの役割を理解する。そして、環境学習の推進に取り組む意欲をもって、コーディネーターとして自分に必要な能力を把握し、その学びの意欲を得て、受講生全体で「学びの共同体」をつくるこ

とを講座初日の目的とした。

4・1・1 アイスブレイク

講座では、ヒアリング能力の開発も含めて、アイスブレイクとしてインタビューゲームを行った。「環境学習・環境教育の目的とは」、「環境学習コーディネーターの役割とは」、「環境学習コーディネーターに必要な力とは」について質問しあい、文章にまとめる活動である。質問に対して自分の言葉で回答することにより、各受講生の考え方の明確化を促し、かつインタビューの仕方、文章のまとめ方、コミュニケーションに関する自分の課題に気づくねらいもあった。しかし、文章にまとめることが難しく、この活動の教育効果は低かった。

アイスブレイクは講座受講生の緊張を解くことが第一のねらいであり、環境学習および環境学習コーディネーターの理解は、アイスブレイクの活動とは切り離し、参加型活動にする（後述4・1・2）。

4・1・2 環境教育の意義と進め方

環境教育の意義と進め方についてお互いにインタビューを実施し、その記録に関する能力を確認する活動である。改善したワークシートの項目を図2に示す。

あなたのお考えを聞かせてください。

インタビュアー名前 ()

◆質問1「環境学習の目的は何だと考えていますか？」

自分	相手 ()
----	--------

◆質問2「環境学習コーディネーターの役割は何だと考えていますか？」

自分	相手 ()
----	--------

◆質問3「環境学習コーディネーターに必要な力は何だと考えていますか？」

自分	相手 ()
----	--------

図2 インタビューシート

4・1・3 環境問題の原因

講座では、環境問題の多様な原因を考える活動ではなく一つの原因を深く掘り下げる（根本原因）活動を行ったのだが、受講生には難しい活動であった。人と自然の関係だけでなく、人と人の関係も含め、複雑な環境問題の構造を理解しておくことは、環境学習指導

課題1. 環境問題の一つを選び、その原因をグループでウェブ図にまとめてください。多様な視点から、問題を分析してください。

課題2. あなたの得意な環境教育プログラム、またはあなたがなされている環境保全活動（以下、活動という）の一つを選んで、その活動名をAに書いてください。その活動は、どんな環境問題を対象、または解決しようとするものですか？それを、Bに書いてください。その環境問題の原因は何だと考えていますか？それをCに書いてください。その原因の原因はなんなのか？なぜ？なぜ？なぜ？を繰り返してみてください（D、E、F・・・）。環境問題の根本原因は何になりましたか？

A

B

C

D

E

F

G

環境問題の原因についてどの段階まで意識した活動をしていますか？
(学ぶ人をファンリテートしていますか？)

図3 環境問題の根本原因を探るワークシート

者およびコーディネーターには重要である。

このため、初めに環境問題の一つを選び、その考えられる様々な原因を関係づけ、簡単な図にまとめ、複雑な関係を把握した後に、根本原因を探る活動に変更した。また、講座では活動方法が誤解されたことから、ワークシートに方法を明記した（図3）。

4・1・4 環境学習コーディネーターに必要な能力とその学び方

初めに、環境学習コーディネーターとして自分に必要な能力とその学び方を文章化する。次に、グループ間で、コメントまたはアドバイスをを行いお互いに励ます活動である。これは、学ぶ意欲の持続に効果的だと考えられる。ワークシートの項目を図4に示す。

4・2 相手を知る

講座では、企業と教育委員会の職員が各主体の特長について講義を行った。しかし、異なる主体間の連携取組に関する具体的な話題提供はなかった。また、討

あなたがこれからよりよい環境学習コーディネーターになるために、学ぼうとする能力は何だと考えますか。それをどのように学びますか。

必要な能力	学び方

コメントまたはアドバイス

なまえ	

図4 必要な能力とその学び方ワークシート

議の時間が短く、異なる主体間をつなぐために必要な情報を得る質問ができなかった。このことから、講義内容を十分に講演者と打ち合わせる等、環境学習コーディネーターが企業、学校、行政などをつなぐ場合に配慮すべき事項やそのポイントについて、講演者と話し合う討議の時間を設けることが必要である。

4・3 情報収集の方法を身につける

環境学習コーディネーターが指導者を紹介する場合、その指導者の能力を見極めること、お互いの信頼関係が必須である。そして、多くの指導者との信頼関係を構築することが必要である。講座で作成したヒアリングシートを表7に示す。

さらに指導者の能力を見極めるためには、その教育効果の評価法を身につけておくことが重要である。

4・4 ヒアリング実習

受講生でペアをつくり、ヒアリング相手の決定、依頼、日程調整、実施等、全てを受講生の自主的取組とした。お互いの住居地など地縁のある地域であれば情報を収集しやすいと考えていたが、お互いの日程が合わず実習できなかったペアや、ヒアリング相手を探すのに苦労したペアなど、この実習は困難な課題であったことがわかった。養成講座なので、ヒアリング調査には主催者側がサポーターとしていっしょに調査を行うなど、支援が必要であろう。

4・5 調査報告・情報分析・講座評価

受講生が調査してきた環境学習指導者、環境保全活動など環境学習に役立つ地域情報を共有し、今後の環境学習コーディネーターのための情報源とする。また、実証研究として行った講座の評価を行い、講座の改善

表7 環境学習支援団体ヒアリング項目

日時	
聞き取り者	
ヒアリング記録	
場所	
ヒアリングの目的	
紹介者の有無	
ヒアリング同席者(全員)	
質問項目	
団体名	
代表者名	
連絡先(住所、電話、FAX、メール、HPURL)	
対応者の氏名	
会の活動の目的	
会の課題	
指導できる環境教育分野	
環境学習の活動実績	活動名
	対象
	人数
	指導者数
	場所(指導できる場所)
	時期(指導可能な時期)
	プログラム
	目的
	費用(講師謝金を含む)
	結果
	発展の事例
課題	
対応可能な環境学習の指導内容	活動名
	対象(可能な対象全て)
	対応できる人数
	派遣できる指導者数
	指導できる場所
	指導可能な時期
	プログラム
目的	
費用(講師謝金を含む)	
大事にしていること	
インタビューアの所感	

を行うことで、環境学習コーディネーターの養成講座を充実させた。

5 考察

講座では提案された講座プログラム案(表3)の前半部分の検討を行った。情報を収集した後に、環境学習企画書、コーディネーター企画書の作成に関して参

加型の活動を実施することで、環境学習およびコーディネーターの理解が深まると思われる。

さらに、コーディネーターとしての信頼性および本質をはっきり見据える力、相手を知る力、肝力（酒の席を活かせる力）、夢を語る力、全体を見通す力、人を把握する力、応援・理解・共有できる仲間、アドバイスを栄養分として適切に取り入れ排出する消化力、継続力・集中力、話題を豊富に持つ、調整仲介する力、心の豊かさなどは、実践を通して身につけていくものと思われる。学び続ける力も重要である。養成講座を修了したからといってコーディネーターとしてすぐ活動するよりも、インターンとして、既に活動している環境学習コーディネーターと一緒に活動することが望ましく、OJT (On-the-Job Training) の機会が必要である。

謝辞

協働事業提案団体の環境パートナーシップちば桑波田和子氏、横山清美氏、加藤賢三氏、GONET 井上健治氏、NPO 法人千葉自然学校上地智子氏、実証研究に参加して下さった多くの市民の方と ELCo の会市野敬介氏に深甚の謝意を表します。また、環境政策課（当時）村松伸弘氏、教育庁教育振興部指導課小芝一臣氏の多大なご支援をいただきました。

注

1) 「県と NPO の協働事業提案制度」は NPO 活動推進課（当時の名称、現在県民交流・文化課）により、2003 年に始まった。2005 年から県の事業を市民団体から提案する“A コース”と県から事業課題を出し市民団体が応募する“B コース”に区分されて実施された

（提案制度は 2010 年度で終了）。

2) 協働事業の事務局および協働事業で開催したワークショップ参加者を会員として、平成 22 年 5 月に発足した。環境学習コーディネーターの活用と普及を図り、県内における環境学習を、よりよく推進することを目的として活動している。ELCo は、Environmental Learning Coordinator の頭文字をとり、エルコと称している。

参考文献

- 1) 千葉県:千葉県環境学習基本方針(1992)
- 2) 小川かほる:環境教育と市民参加ー「エコメッセージ in ちば」開催と「千葉県環境学習基本方針」策定経過から考えるー, 千葉県環境研究センター年報第 7 号, 227-233. (2007 年度)
- 3) 環境パートナーシップほか: 県と NPO との協働事業提案書 (B コース)
http://www.chiba-npo.jp/npo_ps/h20/H20B-5-1.pdf (2008) (2012 年 10 月 30 日参照)
- 4) 小川かほる他: 環境学習コーディネーターに関するアンケート調査, 千葉県環境研究センター年報第 10 号 (2010 年度)
- 5) 環境省:環境教育等促進法(2011)
<http://law.e-gov.go.jp/htldata/H15/H15HO130.html> (2012 年 10 月 30 日参照)
- 6) 環境省: 環境保全活動, 環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本方針
http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=20195&hou_id=15393 (2012 年 10 月 30 日参照)
- 7) 千葉県: ELCo 環境学習コーディネーター必携ハンドブック,29p.(2010)

A Study on the Training Program for Environmental Education Coordinator

Kahoru OGAWA, Shouhei KUWAYAMA¹⁾, Yasushi NISHIZAKI²⁾

1: formerly Chiba Institute of Technology 2: Chiba Institute of Technology

概要

県と NPO との協働事業「環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業」で作成された環境学習コーディネーター育成講座案を元に、育成講座のプログラムを開発し、その効果に関する実証研究を行い、プログラムの改善を行うことができた。

キーワード 環境学習コーディネーター 育成講座プログラム